

## ルビー[ruby]



ルビー

### ルビーの開示コメント表

鉱物名	カラー/透明度	宝石名	方法	開示コメント	備考
天然コランダム	◇レッド	ルビー	加熱	加熱の痕跡は認められません	※R5
				通常、加熱が行われています	※R2
				加熱が行われています	※R1
			残留物を伴った場合	加熱が行われています。 フラクチャーに透明物質を認むを併記	※R3
		充填が伴った場合	加熱が行われています。 キャビティ中に透明物質の充填を認むを併記	※R4	
		スター・ルビー			※R6
天然コランダム+鉛ガラス		ルビー（サファイア）+鉛ガラス	鉛ガラス含浸	鉛ガラスの含浸処理が行われています 表示重量には鉛ガラスの含浸物質も含まれます	*RS1

ルビーはサファイアと同じくコランダムと呼ばれる鉱物の宝石変種です。純粋なコランダムは無色ですが、地球内部でわずかなクロム(Cr)という成分を取り込むことで美しい赤色が発色します。ルビーの生成には主成分のアルミナ( $\text{Al}_2\text{O}_3$ )とクロムという地球化学的に相反する元素が会うという奇跡から始まります。そのため、色が良く、無傷で大きな結晶が産出することは極めて稀で、そのようなルビーはオークションでもダイヤモンドを凌ぐ評価を受けることがあります。

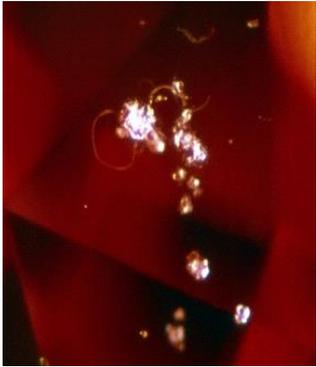
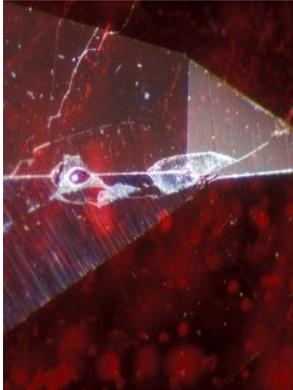
自然界で結晶が成長する際には純粋ということはありません。したがって、ルビーの赤色に寄与するクロムの他に暗味や他の色味の原因となる要因も取り込まれてしまいます。

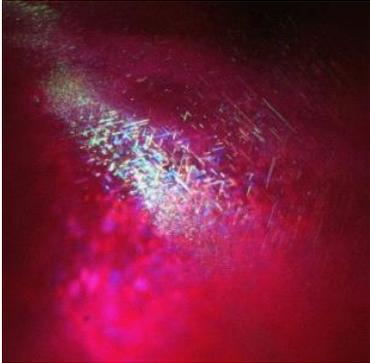
流通するルビーのほとんどはこの余分な色味を取り除いたり、色調を整えるために加熱が施されています。加熱という宝石の潜在的な美しさを引き出す処理については国際的にも広く容認されており、この技術により、美しい色のルビーが比較的安価で入手しやすくなっています。

宝石鑑別書においては、標準的な鑑別検査の範囲において加熱の痕跡が認められれば“加熱が行われていません”と開示コメント欄に記載します※R1。また、加熱の確証が得られないケースでは、“通常、加熱が行われています”というように“通常”という接頭語を用いています※R2。これはルビーという宝石は一般的には加熱されているのですが、このルビーについては確証が得られませんでしたという意味合いです。

加熱の技術は日進月歩で、近年では色変化の効率を良くするための種々の化学物質が用いられることがあ

り、時にこれらが透明物質として石の内部に残留したり<sup>※R3</sup>、充填物として研磨表面に残存することがあります<sup>※R4</sup>。このような残留物が認められれば、その旨もコメントしています。

	
<p>ルビーの加熱を示唆する包有物 開示コメント* R1</p>	<p>ルビーの研磨面に見られる充填物 開示コメント* R4</p>

	
<p>ルビーの内部に残留する透明物質 開示コメント* R3</p>	<p>ルビーのシルクインクルージョン 開示コメント* R2又はR5</p>

最近になって、鉛ガラスを用いたコランダムの処理が問題となっています。これはコランダムの透明度を向上させる他に鉛ガラスが重量に影響を及ぼすことや耐久性に難があるため、明確な情報開示が必要です<sup>※RS1</sup>。ほとんどのルビーが加熱されている中で、少数ながら非加熱のルビーも存在しています<sup>※R5</sup>。非加熱だから価値が高いということではありませんが、良質で非加熱のルビーは市場において高く評価されているのも事実です。加熱の履歴に関する検証には高度な分析機器による検査が必要で、鑑別書とは別に分析報告書として検査報告が行われています。

## スター・ルビー[star ruby]

ルチル等の細かい針状結晶（シルク・インクルージョン）を多数内包したルビーを山高のカボション・カットにすると光の反射によりアステリズムと称される6条のスター効果が現れます。これはルビーが結晶化する際にコランダムの六角柱状の結晶構造に規制されてルチルの成分であるチタン(Ti)がシルク・インクルージョンとして析出することに因ります。



スター・ルビー

たいていのスター・ルビーはカット・研磨以外の人的処理は施されておりませんので、宝石鑑別書のコメント欄には記載事項は無く空欄にされています※R6。

一般社団法人 宝石鑑別団体協議会 (AGL) 050716

